

〔八丈島における遺伝資源の収集，評価，保存，増殖〕

八丈島で栽培されているオクラの特性

野口 貴

( 島しょ農林水産総合センター八丈事業所 )

-----  
【要 約】八丈島で栽培されているオクラを 15 系統収集し，その特性を調べた。収集系統は，莢果や葉等の形質により，4 つに分類できた。同じ八丈オクラ（丸莢）であっても収量性に差異がみられ，その原因の一つとして出芽の早晩が考えられる。  
-----

【目 的】

八丈島で栽培されているオクラでは，丸莢オクラが広く知られているが，角型などの莢果の形状を異にした系統が見受けられる。しかし，これら各系統の特性を比較した報告は，ほとんど見あたらない。そこで，島内で栽培されているオクラの特性を明らかにし，今後の生産安定や遺伝資源としての活用をはかるための資料とする。

【方 法】

島内のオクラ 15 系統と‘沖縄島オクラ’以下 6 つの対照品種を 5 月 20 日に直播した。播種前には種子を一昼夜水に浸し，播種粒数は 1 穴 5 粒とした。本葉展開後に 1 穴 1 本に間引いた。栽植条件は，条間 80cm，株間 40cm，1 区 8 株の 2 反復，施肥量は窒素，リン酸，カリを成分量でそれぞれ，1.8，2.2，1.8kg/a とした。摘葉は，収穫莢の節位までを基本とし，7～9 月の各下旬には，台風対策のため，半展開葉 2～3 枚を残して摘葉した。側枝はすべて取り除いた。収量調査は 7 月下旬から 9 月下旬までとした。

【成果の概要】

- 1) 収集系統を，草姿，草丈，莢果および葉の形状などから 4 つに分類した（表 1，図 1）。
- 2) タイプ は，いわゆる‘八丈オクラ’で，莢果が細長く，横断面が丸形である。先端は尖状，果肉や毛じは柔らかく，果皮色は淡い。また，莢果先端の曲がりが多い。草姿は中で，極めて高性である。葉は大きく，葉柄が長い。アントシアニンの着色は希である。このタイプには 8 系統が該当したが，収量性に差異がみられた（図 2，3）。特に収穫量は，出芽率や到花日数と高い相関があったことから，出芽の早晩が収量性に影響したものと考えられる（表 2）。
- 3) タイプ は，丸莢で‘エメラルド’型である。タイプ よりも細く硬く，果皮色が濃い。草姿は立性で，草丈は中である。葉はタイプ よりも小さく，葉縁の鋸歯が粗である。葉柄は細い。アントシアニンの発現が認められる。‘沖縄島オクラ’はこれに該当。
- 4) タイプ は，‘クリムソン・スパインレス’型で，莢果はやや太くて硬めであり，横断面が角形，子室数は 6～8 である。草姿は比較的立性で，草丈は中庸である。葉は小さく，葉縁の鋸歯が細かい。生育後期には深い 3 裂葉となる。葉柄は短く，極めて細い。
- 5) タイプ は，莢果が太く，子室数が 8 程度の角莢オクラである。島内では‘角ネリ’と呼ばれる。果肉，毛じ共に硬い。草丈は低い，草姿は中～開張性で葉が大きく，草勢がやや強い。イボ果の発生は，各系統の中で最も少なかった（図 3）。
- 6) 以上の結果を踏まえ，今後，タイプ を中心に発芽特性について検討する。

表1 オクラ各系統・品種の特性<sup>a</sup>

系統	b 茎の特性										葉の特性					c 莢果の特性					d 出芽率 (%)	e 到花日数	類型
	草姿	草丈		葉の裂数	葉縁の鋸歯	葉の大きさ	葉色	アントシアニン (後期)	葉柄長	葉柄太さ	アントシアニン (葉柄)	果皮色	長さ	太さ	先端部の形状	断面の形状	子室数	果肉の厚さ (mm)	果肉の硬さ	毛じの硬さ			
		(cm)	少																				
1 大賀郷1	立	144	少	5	粗	中	41	少	中	細	少	濃	長	細	中	丸	5	3	軟	軟	60	65	
2 大賀郷2	中	181	無	5	中	中	37	微	中	中	微	淡	長	細	尖	丸	5	3	軟	軟	0	80	
3 大賀郷3	中	192	無	5	中	大	36	無	長	太	無	淡	長	細	尖	丸	5	3.6	軟	軟	8.3	62	
4 樫立1	中	165	無	5	中	大	37	無	長	中	無	淡	長	細	尖	丸	5	3.4	軟	軟	0	87	
5 末吉1	中	184	無	5	中	大	39	無	長	中	無	淡	長	細	尖	丸	5	3.6	軟	軟	3.3	67	
6 中之郷1	中	172	無	5	中	大	37	無	長	中	無	淡	長	細	尖	丸	5	3	軟	軟	3.3	65	
7 三根1	中	193	無	5	中	大	35	微	長	中	無	淡	長	細	尖	丸	5	3.1	軟	軟	1.7	75	
8 三根2	中	194	無	5	中	大	38	微	長	中	無	淡	長	細	尖	丸	5	3.4	軟	軟	13	64	
9 三根3	中	156	微	5	中	大	36	少	長	中	微	極淡	長	細	尖	丸	5	3.3	軟	軟	0	74	
10 センター2001	立	114	微	5	粗	中	37	少	中	細	少	淡	長	細	尖	丸	5	3.3	軟	軟	0	86	
11 沖縄島オクラ	立	130	少	5	粗	中	40	少	中	細	少	中	長	細	尖	丸	5	3.3	中	軟	42	65	
12 エメラルド(1)	立	127	少	5	粗	中	38	少	短	細	少	中	長	細	尖	丸	5	3.4	中	軟	58	66	
13 エメラルド(2)	立	163	微	5	粗	中	38	少	中	細	少	中	長	細	尖	丸	5	3.1	中	軟	75	63	
14 大賀郷4	立	138	微	3~5	細	小	44	少	短	極細	少	濃	中	太	中	角	7-8	2	硬	中	30	63	
15 末吉2	立	138	微	3~4	細	小	42	少	短	極細	少	濃	中	太	中	角	7-8	2.3	硬	中	0	66	
16 大賀郷5	立	140	微	3	細	小	43	少	短	極細	少	濃	中	太	中	角	6-8	2.1	硬	中	5	60	
17 三根4	開	123	少	5	粗	大	35	少	短	中	少	中	短	太	太	角	8	2.8	硬	剛	0	72	
18 三根5	中	139	少	5	中	大	34	少	短	細	少	中	短	太	太	角	8~	2.7	硬	剛	18	63	
19 中之郷2	開	120	少	5~7	粗	大	36	少	長	細	少	中	短	太	太	角	6-8	3	硬	剛	86	69	
20 クリムソン・スパインレス	立	165	少	3	細	小	42	少	中	極細	少	濃	中	太	太	角	8	2.4	中	軟	72	68	
21 アーリーファイブ	立	146	微	5	中	小	39	少	中	細	少	濃	中	太	中	角	5	2	硬	軟	83	62	

a) 茎, 葉, 莢果の特性は9月20~21日に調査, b) 立(立性)~開(開張性), c) 播種後10日での出芽, d) 播種~開花までの日数 e) ここでは便宜的に, (八丈丸莢型) (エメラルド型) (クリムソン・スパインレス型) (多角太型) (五角型)とした. なお, 系統1~13までは丸莢型で, うち10~13が対照品種, 14~21は角莢型で, うち20~21が対照品種

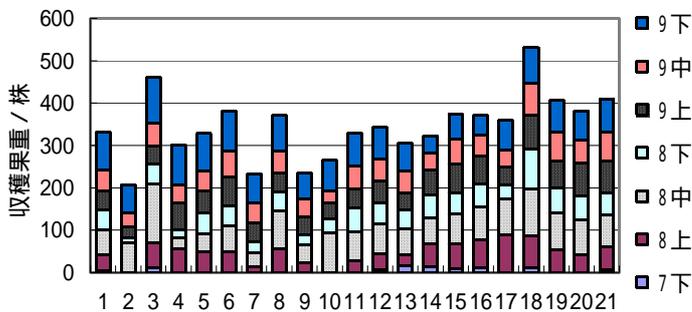


図2 オクラ各系統・品種の時期別収穫果重 (系統・品種番号は表1参照)

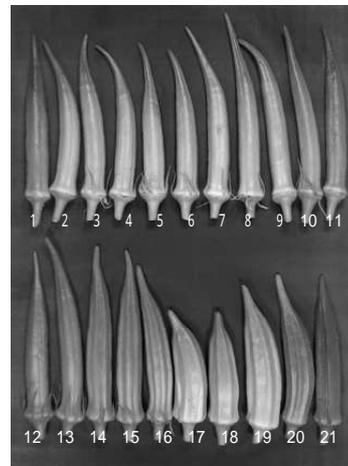


図1 オクラ莢果の形状 (系統・品種番号は表1参照)

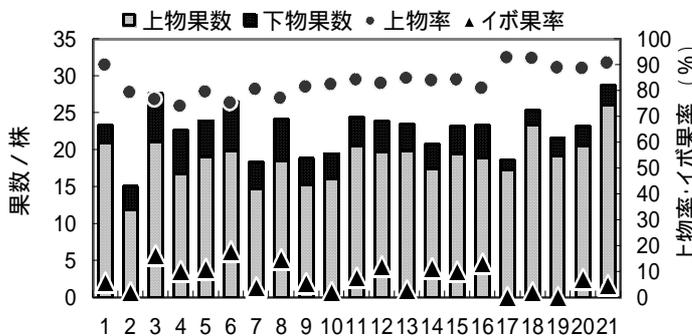


図3 オクラ各系統・品種の収穫果数と上物率 (系統・品種番号は表1参照) 下物果は, イボ果と曲がり果

表2 八丈丸莢系(タイプ )における収穫量と出芽率・到花日数の相関行列

	収穫果数	収穫重	出芽率	到花日数
収穫果数	1			
収穫重	0.96***	1		
出芽率	0.60	0.71*	1	
到花日数	-0.67	-0.72*	-0.74*	1

出芽率と到花日数は表1参照

\*\*\*: 0.1%水準で有意, \*: 5%水準で有意.